



## 一貫コース通信

### 新年度を迎えて

ここ最近、個人的に将来性のない毎日を送っている気がする。小中学生の頃には毎日の意義など考える隙も頭も無く、高校生～大学の1・2年次には数学を勉強しながら新しい環境での生活を何も考えずに楽しんでいたように思う。毎日、もっと言えば単位時間に対する意義付けを意識し始めたのは、周囲から「就職活動」や「大学院進学」という単語が聴こえてきた大学3年次くらいからであろうか。東京で知り合った友人たちと比較して「毎日の濃度が薄い」という感覚をもったことを今でも鮮明に覚えている。将来のことなど全く考えておらず、そのまま就職するイメージなど到底もつことができなかつたことと、幸い「数学」の新分野(作用素環と呼ばれるもの)に興味があったために大学院進学を決めた。それ以後は更に数学に没頭し、今ではそれを教える仕事に就いているわけだが、教員として働くようになってからも、言わば商品でもある「教科解答能力/授業」や「進学指導」に対する知識欲求は尽きることは無かつたように思う。考えてみればそれは、当時身に付けた技術や知識を役立てる場所が明確に見えていたからであり、今年成人を迎えた卒業生や現在教えている生徒達に還元するための行動であった。

冒頭の「ここ最近」というのは概ね1年前後の意味で書いている。断っておくが「やる気がない」という意味ではなく、現在取り組んでいることが将来、何処にクリティカルに効くのかが見えて来ないという意味である。道はあるが、遠い…のか？何もない…のか？を日々繰り返し考えている。時間的リソースはこの間にどんどんと削られ、焦る。何か新しい行動をすべきなのか、妥結点を決めてそこに着地をさせるのかなどを、今も問題を解きながらグルグルと巡らせている。

大学受験を志している中高生は、皆さんに限らず目標がクリアで、かつそれを達成することの方法論が「努力すること」ただ一つという状態である。この、“前”か“後”かのみを問われるたった一本の座標軸に皆さんは乗っている。目的地までの距離ですら判定として定期的に提示される最高の環境である。到達するしないに関わらず、これの走破に乗り出さずして、いつか現れるであろう多面的考察を要する問題を解決などできるものかと私は思う。現代社会のシステムを作り上げ、運用、発展させてきたのは皆さんと同じ道を歩いた多くの碩学であることを確認し、まずは堂々と“学力”という指標で戦ってほしいと思う。

私は、いま考えていることが水の中を流れる石のように摩耗されていくことを期待しているわけではない。やはり、最後には、“答え”が欲しい。